

付録3. 方法書・準備書・評価書チェックリスト

No.	分類	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
1	騒音 【評価手法】	・環境基準との整合性により影響の評価を行う場合は、当該地域の環境状況等を踏まえ、比較するに適切な環境基準であるかなど環境基準の準用及びその際の地域類型の当てはめの妥当性を説明しているか。		
2		・騒音に係る環境基準の類型があてはめられていない地域において環境基準を準用する場合は、現状で満たしている環境基準値の中で、最も厳しい基準値の地域類型をあてはめているか。		
3		・騒音による住民への影響を重視する観点から、工事の実施による騒音レベルの増加分がどの程度かを評価しているか。		
4		・騒音規制法第17条第1項による自動車騒音の限度（要請限度）を評価の基準とすることは同項の規定の趣旨から不適切であることを留意しているか。		
5		・「欧州地域向けの環境騒音ガイドライン」（WHO 欧州事務局、2018年）に基づき、騒音による平均的な暴露量を踏まえた評価を行っているか。		
6		・風力発電機の稼働により睡眠障害のリスク上昇が認められた報告（「風力発電による超低周波音・騒音の健康影響に関する疫学調査」（日本音響学会誌 74 巻 5 号、2018 年））があることを踏まえた騒音の評価を行っているか。		
7		・周囲の風力発電事業（既設及び計画中）との累積的な影響を評価しているか。		
8	騒音 【予測手法】	・上り勾配などの地形条件を踏まえ、通行車両から放出される音響エネルギーが最大となると考えられる地点で予測しているか。		
9		・工事による騒音レベルの予測は環境基準における昼間の時間帯（6時～22時）のみではなく、工事時間帯（昼休憩時間を除く）に限定した予測も行っているか。		
10		・騒音による住民への影響を重視する観点から、工事の実施による騒音レベルの増加分がどの程度かを予測しているか。		
11		・建設機械の稼働による騒音について、5%時間率騒音レベルの予測も行っているか。		
12		・周囲の風力発電事業（既設及び計画中）との累積的な影響を予測しているか。		
13	騒音 【調査手法】	・ブレード等の輸送に際し積み替えが計画されている場合は、積替地点の100m以内に民家等があれば、建設機械の稼働による影響評価を行うよう調査地点を選定しているか。		
14	水の濁り 【予測手法】	・工事に伴い発生する濁水や、沈砂池からの流出水が周辺水域（小川や沢、湿地、湧水等を含む）に到達（流入）しない場合であっても、それぞれの流量（降雨強度、流出面積、流出係数などの設定根拠及び条件を明示）とSS濃度の設定値（根拠を含む）及び予測値を示した上で、到達の有無を予測しているか。		
15		・濁水や沈砂池からの流出水が河川等の調査地点に到達するまでに周辺水域に到達（流入）する可能性がある場合は、その流出水と河川（安全側として平水時）の各流量及び各SS濃度から、完全混合式により合流後のSS濃度を予測し、工事前の平水時と降雨時でのSS濃度と比較して影響を予測・評価しているか。		
16		・水の濁りの予測条件である濁水の浮遊物質量の設定値及び流出係数の値を記載しているか。		

No.	分類	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
17	水の濁り 【調査手法】	・水道用水その他の取水地点や漁場等の位置を調査しているか。		
18		・調査地点について、支流や利水状況を考慮し、事業による影響が特に大きくなるおそれのある地点、水道用水その他の取水地点や漁場等主に水域利用の観点から重要な地点、道路工事に係る水の濁りの影響が生じるおそれのある地点についても選定しているか。		
19		・沈砂池排水口から河川に向けた流線（流下経路）を把握し、小川や沢、湿地、湧水が存在しないか調査しているか。		
20		・濁水や流出水が河川に到達する可能性を把握するため、改変区域図に河川、小川、沢、湿地、湧水の位置を示しているか。		
21	土地の安定性 【予測手法】	・表層土壌や地質の改変の程度を踏まえ、工事中における土地の安定性について、斜面安定解析等の土質工学的手法により予測しているか。安定解析の方法及び種類は地すべりの特性等に合わせて選定しているか。		
22		・予測地域及び地点は、地形改変等の程度及びその分布を勘案し、調査地域において、造成又は樹木の伐採による、工事中の一時的な地形崩壊、土砂流出等の影響が及ぶおそれのある範囲を設定しているか。		
23		・予測時期及び期間は、工事中において、掘削・盛土・切土の深度等の影響要因が最大となる時点を設定しているか。		
24	土地の安定性 【調査手法】	・調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺において、地盤に影響を及ぼす要素である地形分布、地質構造、帯水層の分布、地盤の土質工学的特性等を考慮して設定しているか。		
25		・調査地点は、周辺の地形・地質の状況を勘案して、調査地域の地盤の状況を適切に把握できる地点又は側線、事業による影響が特に大きいと予想される地点（土地の安定性が変化する可能性のある地盤の分布地域、急傾斜地等）など、土地の状況を把握するに当たって、適切かつ効果的な地点を設定しているか。		
26		・調査時期は、地形調査については、季節の制約を受けないが落葉期等の地形を見通しやすい時期、地質調査については、雨量の多い時期や凍結時を避けた時期を設定しているか。		
27	動物（共通） 【調査手法】	・発電機の大形化に伴う搬入路の道路拡幅による環境影響を踏まえ、動物の現地調査において、搬入路周辺の小河川に生息する動物の生息環境を網羅するよう調査地点、調査区又は経路を設定しているか。		
28		・動物の調査方法（トラップ設置箇所の選定基準、予定している調査努力量等）を具体的に記載しているか。		
29	鳥類 【評価手法】	・周囲の風力発電事業（既設及び計画）との累積的な影響を評価する。		
30	鳥類 【予測手法】	・周囲の風力発電事業（既設及び計画）との累積的な影響を予測する。		
31	鳥類 【調査手法】	・定点調査法による調査を実施する場合は、代表的植生又はその林縁に100mおきに数か所の定点を設置し、10分間立ち止まって半径50m内のすべての出現種を飛行高度、飛行トレースとともに記録し、定点ごとに時刻を変えて数回行っているか。		
32		・任意観察や定点観察を補完するため夜間～早朝の自動録音調査を実施しているか。		
33		・希少猛禽類の調査地点からの可視範囲図を示しているか。		
34		・事業実施区域周辺にイヌワシの生息が確認されている場合は、周辺30km圏の牧草地の分布図を示しているか。		

No.	分類	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
35		・イヌワシの調査においては、繁殖成功した1シーズンを含む2シーズン以上の営巣期及び非営巣期にわたり、2年以上実施しているか。		
36		・希少猛禽類に関する地域特性を把握するため、地域の自然環境に詳しい研究者等にヒアリングを実施し、その結果を記載しているか。		
37	コウモリ 【調査手法】	・音声記録型のバットディテクターによる長期モニタリング（地上高、ブレード高さ）を実施しているか。		
38		・カットイン風速の変更やフェザリング等の環境保全措置を検討する際に有益な情報として、コウモリが確認されたときの風速・風向、天気、月齢を合わせて記録しているか。		
39		・天候や月齢に左右されるコウモリの活動を踏まえ、1季につき3晩程度、冬季以外の3季に調査を実施しているか。		
40		・高高度での飛翔実態を把握するため、LEDライトの照射による高空飛翔調査を実施しているか。		
41	魚類・底生生物 【調査手法】	・対象となる生物の生態や地域特性を考慮して、生息状況の季節変動を把握できるよう生息種等の確認が得られる活動時期を調査期間に設定しているか。		
42		・生体の捕獲、目視、鳴き声、糞や体毛などの痕跡等による調査では把握が困難な水中を生息・生育環境とする種を効率的に把握するため、環境DNAの分析等の最新の手法を用いているか。		
43	昆虫 【調査手法】	・6月初旬から7月初旬の短期間に出現する昆虫の生息状況を把握するため、陸生昆虫の一般採集調査は春、夏、秋に加え、初夏にも実施しているか。		
44		・ヒメボタルの発光及び飛翔は天候状況に左右されるため、ヒメボタルの夜間調査を実施する場合は、調査期間中に少なくとも3回程度実施し、調査時の気温、湿度、風速などの気象状況も記録しているか。		
45	植物 【調査手法】	・発電機の大型化に伴う搬入路の道路拡幅による環境影響を踏まえ、植物相の現地調査において、搬入路周辺の小河川に生育する植物の生育環境を網羅するよう調査地点、調査区又は経路を設定しているか。		
46		・文献調査に基づく植物種のリストには、文献から抽出する際に使用した地名等のキーワードを明記しているか。		
47		・植物相の調査ルートは、森林内の林床、河床、池沼・湿地、崖地などの特殊な環境を網羅するよう設定しているか。		
48		・植物相の調査は植物の生育・成長が顕著な時期を中心に、種により出現時期や同定に適した開花期、結実期等が異なることを考慮して、十分な回数行っているか。		
49		・植生自然度9以上、または岩手県自然環境保全指針で保全区分Aとされている場所を改変する計画の場合は、植物社会学的植生調査の他に、該当する改変区域の林相が明らかになるような森林生態学的データ（高木層の種組成と胸高直径階分布）を把握しているか。		
50	生態系（共通） 【調査手法】	・基盤的な環境と動植物種との関係を踏まえ、気象、地形、土壌、地質、水文環境、湧水・伏流水の状況、河川等における水深・水温・水質・底質環境・流速等を調査しているか。		
51		・水域生態系を含む生食連鎖や腐食連鎖等を通じたカスケード効果について食物連鎖図で整理しているか。		
52	生態系（鳥類） 【評価手法】	・周囲の風力発電事業（既設及び計画中）との累積的な影響を評価しているか。		
53	生態系（鳥類） 【予測手法】	・周囲の風力発電事業（既設及び計画中）との累積的な影響を予測しているか。		

No.	分類	チェックリスト項目	該当の有無	該当頁※
54		・イヌワシの生息環境調査では、風力発電機から500mの範囲を猛禽類が回避して利用しなくなる範囲として予測しているか。		
55	景観 【評価手法】	・周囲の風力発電事業（既設及び計画）との累積的な影響を評価しているか。		
56	景観 【予測手法】	・フォトモンタージュは紙面では風車が小さく見えるため、スクリーン投影により大きさを考慮しているか。		
57		・巨大かつ垂直な人工物に視野が誘導されることを考慮し、自治体や専門家の意見を踏まえ、垂直見込角だけでなく、眺望特性に応じた広めの水平画角（120°程度）の視野角で予測しているか。		
58		・価値認識の対象及び指標に着目して感覚的な変化を可能な限り客観的かつ定量的に予測しているか。		
59		・周囲の風力発電事業（既設及び計画）との累積的な影響を予測しているか。		
60	景観 【調査手法】	・眺望景観への影響は広域にわたることを踏まえ景観資源を調査しているか。		
61		・各景観資源の視野可能域及び視野可能域内の眺望点の分布状況を把握しているか。		
62		・眺望点からの眺めを把握し、眺望方向に事業実施区域又は事業により出現する工作物が含まれる可能性があるか、単体としての工作物ではなく群としての工作物がどの程度存在するかを把握しているか。		
63		・眺望景観の利用及び眺めの状態を把握し、眺望景観の価値認識の対象及び指標を選定しているか。		
64		・予測・評価の対象とした眺望景観について、選定した指標を用いて、眺望景観ごとに必要なアンケート等の調査を行っているか。		
65	共通事項	・年（年度）の表記は、西暦で統一するか、和暦に西暦を付記しているか。		
66		・経済産業省に提出する方法書・準備書チェックリストを添付しているか。		

※ 「該当頁」については、方法書（準備書・評価書）に記載の場合は「法（準・評）-p●」、補足説明資料（非公開版）に記載の場合は「補足」、記載がない場合は「理由-No.●」（別紙）等と記入すること。

チェックリスト項目に該当する場合、方法書（準備書・評価書）又は補足説明資料
に記載がない理由を記載

No	方法書（準備書・評価書）又は補足説明資料に記載がない理由